

あまでつすです

松枝侯爵嫡男・清頭は
訊ねる「君はのちのち、
凡てを忘れる決心が付い
ているんだね」

綾倉伯爵令嬢・聡子は答
えた「ええ、どういう形
でかそれはまだ分りませ
んけど、私達の歩いてい
る道は道ではなく、棧橋で
すから、何処かでそれが
終って海が始るのは仕方
がございませんわ」

天人五衰、と四部作なら
成る『豊饒の海』。

昭和四十年から四十五年
にかけて書かれ遺作となっ
た三島由紀夫の小説であ
る。

過去に「音楽」「潮騒」
「金閣寺」などを讀んだ
ことはあるが、『豊饒の
海』は難解だと訊いた事
があり未読であった。

冒頭の清頭と聡子の会話
がこの物語のラストを暗
示しているのだから記

したが・・・大乗仏教を
代表する思想である唯識
が本編の根本に成ってい
る。

唯識は「唯だ識のみ」を
説く考えて、識とは心を
云い、凡て心である。

心以外の何物も存在
しないと云うのが唯識の
定義だと云うが、奈良・
興福寺や薬師寺はこの唯
識の論理「成唯識論」を
根本聖典としていると云
う。

また唯識は輪廻転生のメ
カニズムを説明する思想
でもあると云う・・・こ
うだから、この小説

を讀むのを避けてきた。
三島由紀夫は、『豊饒の
海』は月のカラカラな嘘の
海を暗示した題」だと云
っている。

確かに讀んでみると虚構
の思想的背景を背負い、
世界崩壊を描いているの
は間違いない。

これは清頭の友人・本多

繁邦の目を通して十九歳
から八十一歳までを四部
作として書かれていたが
この小説を讀み終わると
凡てが否定されてしまう
今までほんとに讀んでき
たのか、讀んでる事が現
実だったのか、という虚
無感が襲ってくる。

それは本多が門跡尼となっ
た聡子に過去の事を訊ね
た時、清頭のこととは全く
記憶に無いと云う。

門跡は云う。

『記憶と云うてもな、映
る筈もない遠過ぎるもの
を映し出すれば、それを
近いものの様に見せもす
れば、幻の眼鏡の様なも
のやかいに。』

それは心ですさかい
否定による自己救済が成っ
たと云えば好いのだろう
か。

風地蔵の玄関横に、この時期 満宮とか、町並みとかで、七夕
になると、きまつて数本の竹が 飾りをみかけはじめた。

生まれる。1日でぐん

と伸びるから、あつと 風地蔵は、七夕をやってあるん
いうまに七夕の笹にな だるうか。

いつものように威張って、電話

で、「七夕飾つとんの?」「は

大きな笹で七夕を毎年 あ?3人もおるのに誰も気づか

やっていて、その名残 んの?」って言えばすぐすむ事

か、笹を見てあわてて だけど、こういつた季節の行事

七夕の事を思い出す。 くらい、じぶんたちの感性や気

いまは、福岡にいて、太宰府天 持ちでやるもんだらうな〜って、

七夕

りおんが保育園の頃、

で、「七夕飾つとんの?」「は

大きな笹で七夕を毎年 あ?3人もおるのに誰も気づか

やっていて、その名残 んの?」って言えばすぐすむ事

か、笹を見てあわてて だけど、こういつた季節の行事

七夕の事を思い出す。 くらい、じぶんたちの感性や気

いまは、福岡にいて、太宰府天 持ちでやるもんだらうな〜って、

風地蔵新聞

第93号
発行 編集
風地蔵
田中 美帆
〒503-0922
岐阜県大垣市
馬場町85

ヤフーブログ
毎日更新中
風地蔵徒然日記
<http://blogs.yahoo.co.jp/rion5230>

父の思い出

大橋 美紀

あるお休みの日、
私は日用品を買いに
岐阜のある店にと出
かけました。

店内の特設会場に父
の日のプレゼント。

ディスプレイ販売品
がいっぱい。

ネクタイ・シャツ・
ハンカチ・etc.

横目にしながら歩い
ていると、私がふつ
と足を止めたのが、
お酒のディスプレイ
の前でした。

地酒・コラボ酒・ワ
インにビール・焼酎

・ビンモラルもそ
れぞれこだわり、デ
ザインも素敵な物も。

私がお酒が好きだか
ら足を止めたのもあ
りますが、3年前に
他界した、私の実の
父がとて、お酒が
大好きだったからか
な?

私がお酒が好きな
のは、父のDNAかも
しれない。

私が高校生になつた
頃から、自営だった
父は、私が学校から
戻ると、「行くぞ

ー」とスナック、あ
る日はお寿司屋、そ
して居酒屋と私を連
れて飲みに行くのが

習慣になり、もちろ
んまだ未成年だった
私ですが、父の中で、
高校生になつたから
OKだったのだから

か。
「俺と一緒に時は飲
んでいい。」
とマスター、大将に
言つて、私と飲んで
いました。

そのおかげ?私は早
くから大人の世界で
した。

又
それが楽しかった。

高校生ぐらいの頃だ
と、私の友達も父親
を煙たく感じていた
んだけれども、私は
何でも自由にさせて

くれる父が大好きだつ
た。

とても社交的
で、考え方や計画は
浅いけど、とにかく
行動的なので、休み
の朝になると、「行
くぞー」の父の声。

えっ何処に?「行く
ぞー」何も用意して
ないのに、「行くぞ
ー」私達の休みの計
画は無視。

キャンプにスキー、
山登り、いろんなと
ころには連れて行つ
てくれましたが、と
にかくいつもサプラ
イズばかりで、私た
ち兄弟も文句を言
いながらも、それが何
となく楽しかった。

中でも一番ビックリ
キャンプ。

何処に行ったのかは
忘れてしまいました
が、小さな三角テン
トに毛布と、鍋と、
米と塩とのり、そし
てカップメン。

それだけ持つて山へ
と、二泊三日。ただ
川が流れているだけ

石がゴロゴロしてい
る川辺にテントを張
り、集めてきた木で
火をおこし、川の水
を鍋で沸かし、カッ
プメン。

鍋で米を炊き、塩と
のりで食べたりの毎
日で、お菓子も食べ
たいし、ジュースも
飲みたいし、遊ぶも
の無いし、子供心
にそう思った。

今思い返すと、自分
たちで考え、食事を
作ったり、遊びを考
えたり、そんな3日
間、笑い話のように
思い出し楽しかった。

そんなこと
を思い出しながら、
私はお酒のビンを手
にしてみました。

今は、話したくても
話せないし、一緒に
飲みたくても飲めな
い。
いつも少年のようだつ
た父。

本当に私達は、楽し
く育ちました。
父が私の父でよかつ
た。

6月18日、
父の日の夜、
主人も20代で父を
亡くしているの、
2人で父の話をつま
みにお酒を飲んだ。



新婚記

白石 美帆
(たなかみほ)

きのうで結婚2ヶ月でした。2カ月記念日。

きょうのあさ、トイレのカレンダーを覗いて気がつきました。この2カ月は精一杯、周りも見えないくらい、ただ一生懸命やるだけのことを頑張る日々だったように思います。

そのせいか、自分のことで精一杯で、りおんが淋しい思いをしたことを、電話で聞きながら、ただ一緒に泣くことしかできませんでした。

それでも、そのことを、寮のおかみさんや、剣道仲間のおかみさんに伝えると、みんな一緒に泣いてくれましたが、さいごは、「堂々としてなさいよ。」

「何も悪い事をしてるわけじゃないんだから、毅然として。」とか、

「福岡だからしょっちゅうはいけなくなつたけど、親元を離れてるのは同じだよ。親離れ、子離れするってことは、辛いけど大事な事だよ。」って、みんな前向きに応援して下さいます。

先生もおかみさんから聞いて、電話してくれました。

「わかってたけど、りおんも強くなつてほしい。親と子であっても、一人ひとりの幸せになる人生がある。」

たのが、りおんだけを向いてないわけだから、今はさみしいかもしれないけれど、大きく羽ばたく巣立ちの時、なんだとも思います。

何でも包み隠さず、洗いざらいを話して2人で生きてきました。結婚したからと言って、そう簡単にその考えが変わるわけでもありません。どこかで、冷めた目で見てる私もいました。

た今、このパートナーは、私の鏡だなんて思うようになりまして。私が不安だと、彼も不安だと思おうです。

最初の演奏は、モーツアルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」という曲で、

その人が、「アンコール！」と大きな声を出して手をたたき、周りも私も、一緒に手をたたきながら、「アンコール」と言っていました。



縁がなく、20年近く行ってない場所です。今回行われた、弦楽四重奏のロビーコンサートは、初めての試みだそうです。

午後1時30分になり、司会の人の挨拶から始まり、演奏者が登場しました。

その後、3曲は曲の説明をしてもらえて聞いた事もない曲もありましたが、すごいという一言です。

感想は、本当に500円でいいの？と思っただのが、最初の感想です。

動を感じます。ほんものの家族になれる日をまいにち紡いでいきたいと思えます。

午前11時と午後1時30分の1日、2回の演奏会で、ゆっくりしたくて、午後の部の演奏を聴きに行きました。

今回の、ワンコインコンサートも、風地蔵に見えるお客様がチラシを持ってきて下さった事で、知った事です。

その後、3曲は曲の説明をしてもらえて聞いた事もない曲もありましたが、すごいという一言です。

感想は、本当に500円でいいの？と思っただのが、最初の感想です。

ワンコインコンサート

原 由里子

私は楽器や絵画など全く出来ないです。出来ない分、絵画を観たり、音楽を聞いたりする事が好きで、観たり聞いたりする機会があればその場所に行き、その時間を堪能して楽しみたいです。

5月31日の日、大垣市民会館で、弦楽四重奏のロビーコンサートがありました。

その足を床で支えて安定させるだけの役割だけじゃないそうです。

この3曲が終わり挨拶して下がっていきましたが、私の隣の席の方はクラシックが好きなんです。

次はこんなにはばらばら会場をあとにしました。

私の家から自転車で10分もかからないところにあります。

1番前の左の席が空いていて、そこに座り、気付いた時には

会場全部を利用した

この3曲が終わり挨拶して下がっていき

おわり

おほかさんの方が、心配だ。」って笑ってらっしゃいました。

今までりおん一筋だっ

会場全部を利用した

この3曲が終わり挨拶して下がっていき

おわり

ちよつと立ち話

鎌澤さんの泣けた！ウチめつちや泣いたし。なんかこの文章以外に、もいつぱい言いたいたいところあるんやろうなあっておもったし、うちの事考えてくれてうれしくて泣きながら、お母さんの読んだら、涙がピタッと止まった！なんやあれ！（怒）

（りおん）

「なん、泣きよるとや？どうしたと？この美紀ちゃんの読んだ泣いたと。みんなこうして手紙みたいに送ってくれたい。おまえ、今、字打ち間違えたぞ。「そ」が「す」になつとる。」

（たかお）

大橋さん、新聞読ん

で覚えました。あの方の、バレンタインの話よかったですね。いい家族だと思いました。（エステのNさん）

社長さん、よかったですね。読みました。幸せそうです。こっちはいつ来られるんですかね。逢いたいです。痩せられたところも見てみたい（エステのAさん）

社長さんよかったですね。最後にあつてみたかったわー。（エステのTさん）

原先生の季節、いつからこつという風になつてしまつたんでしょか。

社長の新婚記。医者なんだから患者の気持ち察してほしいなと思うのと、たかおさんのやさしさに「ハイハイ。いいですね。勝手にしてく

ださい。」と思うのは私だけでしょか。大橋さんの母の日は私の親は2人ともいないので、うらやましいと思う気持ち、その分夫の両親を大切にしないと切に思いました。

奥田さんのは、遊びも仕事も力を抜かない、いつも頑張っていますね。

あまでうすさんの改めて日本語の難しさを考えさせられ、私も間違えて覚えてる事が多かったです。

たかおさんは、本当に社長やリーちゃんを大切にしているというのが伝わってうらやましい。（宣子）

社長さんで、昔はやんちゃだったのね。今からは想像できないね。

いね。ラブラブっていいよね。（エステのTさん）

いろんな人が書いて面白。又いろんな人がちゃんと読んでるのがいいよね。（エステのIさん）

たくさん書いてあつて長いから、時間がない時は読めないからねえ。（エステのFさん）

最初の原さんと言う方の「季節」という文章ですが、「しかし昨日は、」を段落をつけた方が読みやすくなると思います。（電話をかけてくれた男性）

きょう、年配の方から電話でもつと読みやすくした方がいい

きょう、年配の方から電話でもつと読みやすくした方がいい

と連絡をもらいました。ちゃんと読んでるから、これからも読んでいきたいから言つて下さったんだと思います。

店長のは、自信をつけていく事で前向きに頑張れるんだと思えました。

大橋さんのは、自分のお母さんの気持ちがあつたこと、子供さんの気持ちがあつた事で、どんな事が大切なのか思えると思えました。

奥田さんのは、仕事を頑張る「家族のため」に伝わってきました。

あまでうすさんののは、日本語は同じ言葉でも微妙にちがつたり、イントネーションが少し違うだけで、そのもの自体も別物になるから難しいと思います。

たかおさんも社長もお互いを思い合っているのが伝わってきました。

ます。お腹いっぱいです。（由里子）

今年は地震もあり、夏に向かつて節電、日本中が一つになれるような気がします。今日はエステルームから笑い声、そしてある日は、お客様と一緒に涙されたりと、今までの経験が人の気持ちのわかる今の店長なんだと納得しました。

オーナー、大丈夫です。きつと赤ちゃんが出します。私も新婚だった頃のことを、好きな人の赤ちゃんほしい気持ちもよくわかります。こちらに来られた時、たかおさんがオーナーをみる目に「幸せにする」という言葉を本物だと確信しました。（美紀）



志多ら

鎌澤 宣子

5月29日、仕事を早めに帰らせてもらつて、志多らのコンサートに行つてきました。

今回で2回目ですが、前回の時はお店でいつもお正月に三味線の演奏をしてくださる、小川先生ご夫妻が和太鼓もされていて、志多らというプロ

の太鼓集団のコンサートが大垣の市民会館であるの。「その中に、私達が教えていた子もいるのよ。」と聞き、また、別のお客様も、志多らの関係者の方がいらつしやつて、「良かったら観に来てください。」とお誘いを受けて、興味もあつて、和太鼓のことは何も分からないうで観させていたのだのですが、すごい！

迫力があつて、みせる舞台で、「やつてみたい」と思つたきつかけでした。そのあといろいろあつて、ようやく去年の10月から、私

も和太鼓を始めて、打弾も経験して、あの興奮を又体験したい。もつと上手になりたいと思つていた矢先の今回のコンサートです。

かわなみ作業所という障害者の方たちの公演だったので、公演だったのですが、迫力のある、楽しくなる舞台を観ているだけで、それが誰かのためになつていくという、1石2鳥三鳥にもなつていて、とつても得した気分です。

以前、小川先生の十周年のパーティーに行かせて頂いたときに、小川先生のお弟子さんで、志多らのメンバーの早崎信子さんが、「志多らに入る前は、太鼓をたたくなかつた。それを仕事に出来る

とつても楽しい一日でした。今度は、風地蔵のスタッフや、リーちゃん、社長、たかおさんと一緒に観れるといいな、というよりも、見せてあげたいと思つていました。

真夜中の電話

2011年7月3日

風地蔵新聞

第93号

2011年7月3日

風地蔵新聞

第93号

りあん
おかあさん。

これは、内緒やけど、
おかあさんに母の日に
手紙書いたみた
いに、父の日に、た
かおに、手紙書いて
送ったよ。

でも、うち、いやみ
ばかり、書いてまっ
た。
ちよっと、愚痴って
言うか、傷つけるか
もしれん。

さいしょ、お母さん
から結婚するって聞
いて、なにがなんだ
かわからんくって、
いやで、うちのお父
さんは、ひとりやし、
そのお父さんが、最
後にお母さんに
今回は、おかあさん
がお父さんに、告つ
たけど、もし生まれ
変わりがあるとする
なら、つぎは絶対自
分から、告る。って、
いうのをきいて、う
ちは、
泣いた。

でも、おかあさんが、
たかおの話をすると
き、
幸せそうなのを見て、
おかあさんが幸せな
らしいかって
思うようになった。

けど、
いままで、2人で生
きてきて、何をす
るのも一緒で、
剣道終わってからも、
一緒に走ってくれた
り、
おかあさんは、うち
のことだけを考えて
生きてきたのに、
それが、今では、あ
んまり電話もかかっ
てこんし、
かけても、お金の話
ばかりで、すぐ切
るし、
きのこの、西高祭だっ
て、

うちは、平気やって
おもったけど、
西高祭と、体育祭の
ときだけ、お母さん
の弁当を
食べれる時やけど、
うちは大丈夫ってお
もったけど、
やっぱり、おかあさ
んが来ないから、
去年みたいに、女子
全員で、おかあさん
といっしょに
ごはん食べれんかつ
た。

後やで、来てくれる
と思うよ。って、
言ってくれて、
先生のおかげで、な
んかやっとな、すつき
りした。

うちが、足が痛くつ
て、先生がすごく心
配してくれるのが、
嬉しくって、こうし
て真剣に心配してく
れる人がおるってこ
とが、
嬉しくって。

そいうこと、父の
日の手紙に書いてし
まって、
感情が、あふれて
おさえきれんくって、
たかおは傷つくかも
しれんけど、
こんな日だから、子
どもの思いも、伝え
たくって。

でも、この前の風地
蔵新聞に、たかおが
自分の娘って、うち
のこと書いてくれと
るのを見て、
うれしかった。

去年は、父の日のカ
ードも、ひとり、書け
んかったけど、
今年は、おかみさん
が
「りあん、書くよね、」っ
て、言ってくれた時
も、
あ、うちにも書け
る人がおるって、嬉
しかったんやけど、
書きだしたら、そん
なことばかり書い
て、

みんなは、親と一緒に
に食ってって・・・
近くにはおったけど、
もう、無理やった。

そ、まのおかあさん
と、こうへいのおか
あさんが、
おかあさんに、頼ま
れて、うちのおなか
とか
さわってくれて、
「あ、おかあさん
が来たなら、うちが

書きながら、途中泣
けてきて。止まらん
くなくて・・・
おかあさん、ごめん
ね。
夜中に、泣か
せてごめん。

玉龍旗で、先
生が、女子を
おかあさんち
に、1週間
泊めて下さいつ
て、お願いし
たのも、
本日は、大会
の夜は、チ
ムで気持ちな
高める時なも
んで、
遊びに行つと
る、わけやな
いもんで、
最初聞いたと
き、えっ？っ
て思ったけど、
これを書きな
がら、
先生は、もし
かしたら、り
あんのお、こう
いう気持ちな
知って、遠い
で、なかなか
会えんもんで、
1週間、
夜だけでも、
ずっと一緒に
おれるように
してくれな
んかかって
おもつとる。

恥ずかしいって
言ったって、みんな
の前で、こうやって
触るよな、って
思ったら、もう我慢
できんくって。
先生が、「だいじょ
うぶか？」
って、気にして、見
に来てくれて、
「うまそうな弁当や
な。でも、お母さん
の弁当がやっぱりい
いな。来年は、最

手紙がついたら、
たかおに、ごめんっ
て、いっついて。

7月号 庭師の暑さ対策

まだ6月なのに35度近い。今年も暑い夏になりそうだ。
「外仕事」なので、暑さ対策も色々している。

まず第一は「あきらめる」である。もうこれしかない。
後、大事なものは思い込み。「夏生まれなので、暑さには強いはずだ」である。
物理的対策はほとんど無理なので、精神論しかない。

暑そうな現場は若い衆にやらせて、なるべく日陰で作業する・・・
風が吹けば高い植木に登ってみる。
美人若妻に「暑い中ご苦労様です」といっていただき、
「いえいえ、庭師は暑さを感じないのですよ。ガハハハハ」とお話をする。

コンビニで「ガリガリ君」(60円くらい)のアイスを入れて体に入るとなかなか冷える。
頭を3ミリで刈り込む。超涼しい。究極のクールビズ。
仕事から帰って、そのまま子供たちと「井戸水」プールに入る。だいたい水温が15度くらいなので
最高に冷たい。
そして、嫁さんに「今日も暑かったね」と言ってもらえば、何とか夏を乗り越えられる。

庭師 奥田良樹

